

寧夏大学（農学院・経済管理学院）との共同研究推進を目指した成果報告セミナーへの参加

一戸俊義・伊藤勝久・谷口憲治・米 康充

目 的

2003年より、島根大学と寧夏大学は日中国際学術セミナーを相互に開催している。本セミナーでは、両大学での社会科学および自然科学分野の研究成果、共同研究成果報告と討議が行われる。最近では、西部ネットワークに関わる蘭州大学、西南大学、内蒙古師範大、寧夏医科大学、京都大学、横浜国立大学、龍谷大学などの研究者も参加し、中国の農村農業環境に関する国際的な学術検討の場になっている。平成23年度の学部長裁量経費において、島根大学プロジェクト研究推進機構・特定研究部門・寧夏プロジェクトに参加した経験を有する生物資源科学部教員4名が2011年12月17-18日に寧夏大学で開催される日中国際学術セミナーに出席し、寧夏大学農学院および経済管理学院教官との学術交流、共同研究の推進および競争的資金の共同申請について協議することを目的とした。

社会科学分野では、伊藤勝久教授と谷口憲治教授がそれぞれ以下の演題で口頭発表を行った。

伊藤勝久：中国寧夏農村の社会関係資本（Social Capital）
賦存状況の地域差に関する考察
—寧夏都市近郊農村と南部山区農村との比較—

谷口憲治：中国農村信用社の農村商業銀行への移行
—寧夏黄河農村商業銀行を事例に—

自然科学分野では米 康充准教授と一戸がそれぞれ以下の演題で口頭発表を行った。

米 康充：PALSAR データを用いた森林バイオマスの測定

一戸俊義：塩池県で飼養されている雌灘羊の栄養充足率

要 旨

4題の発表のうち、代表者（一戸俊義）の発表要旨を掲載する。

塩池県で飼養されている繁殖雌灘羊の栄養充足率

【目的】 演者は2008年度から寧夏研究プロジェクトに参加し、「寧夏在来メンヨウの舎飼い生産成績向上に関する研究」に着手した。寧夏の主要なメンヨウ生産地帯である塩池県の灘羊飼養農家を戸別訪問し、2003年5月に施工された封山禁牧政策下での飼養現況について現地調査を実施した。その調査結果に基づき、繁殖雌灘羊に一般農

家が冬期および夏期において慣行的に給与している飼料の価値について査定を試みた。

【方法】 寧夏回族自治区呉忠市塩池県の2地域（Maerzhuang, Yuzhuangzi）において、飼養規模の異なる6戸のメンヨウ農家（飼養頭数24-160頭）を3月および9月に訪問し、聞き取り調査を実施し、飼料サンプルの提供を受けた。採取した飼料サンプルについて、化学成分分析および *in vitro* ガス生産テストを実施し、飼料を自由摂取した場合における繁殖雌灘羊の代謝エネルギーおよび粗タンパク質の充足率を試算した。

【結果】

1. 冬期慣行飼料給与下での栄養充足率
 - (1) 冬期慣行飼料を自由摂取した場合、灘羊繁殖雌の妊娠期および泌乳期のエネルギー要求量を充足することは可能だが、タンパク質摂取量は要求量を大幅に下回ると試算された。
 - (2) 妊娠と泌乳に要するタンパク質供給不足に対処するため、灘羊は種特有の栄養・生理的調節機構を有することが示唆された。
2. 夏期慣行飼料給与下での栄養充足率
 - (1) 夏期において塩池県の小規模メンヨウ農家が給与する飼料は粗飼料が主体であった。トウモロコシ茎葉部と穀類を混合して給与することにより、維持に要するタンパク質供給は困難なく達成することが可能であることが示された。
 - (2) 分娩後1-4ヶ月間の泌乳期で体蓄積の損失が生じるが、夏期に給与される粗飼料主体の飼料は、維持量を超過する代謝エネルギーおよびタンパク質を供給可能であると推定され、8-9月の交配時期までには乳生産活動のために動員されて損失した組織の補填が完了しているものと推察される。
 - (3) 夏期に利用可能な粗飼料にトウモロコシ穀実を混合して給与した場合、寧夏において近年試みられている灘羊の年2産（春、秋分娩）生産体系においても利用可能であることが示唆された。